



今号内容

1 ページ

「合言葉」決定

2 ページ

鳥取大会 報告

3 ページ

女性スタッフ研修報告

4～5 ページ

スタッフ研修報告

6 ページ

茶話会 感想

7 ページ

プレスリリース
あり方検討委員会
編集後記

こころをひとつに…

全国自立援助ホーム協議会 「合言葉」 が決定しました。

最優秀賞

「あなたの居場所はここにある」

テンポラリくまもと

受賞されたホームには、全国自立援助ホーム協議会 鳥取大会において、
串間会長より賞状と目録が授与されました。

応募総数は、なんと172作品(42 ホーム)。

どれも想いのこもった素晴らしい作品でした。

役員会で12作品が選ばれ、更に全国大会参加者の皆様のオンライン投票で
最優秀賞、優秀賞が決定いたしました。受賞作品は以下の通りです。

☆優秀賞

「一緒に進もう明日へ」 自立援助ホーム つばめ

「つなげる心とつながる勇気」 慈泉寮

☆特別賞

「安らぎと、羽ばたきのあるとまり木」 鳥取フレンド

「ありのままをあたり前に」 こんぴら鞆橋荘

ご応募下さったみなさまに心より感謝申し上げます。



最優秀賞

テンポラリくまもと様

【全国自立援助ホーム協議会 第27回 鳥取大会】報告

実践から考える自立援助ホームの“今”～支援の“間(はざま)”を再考する～

開催期日 令和4年11月15日(木)～16日(金)

実施方法 ハイブリッド(対面+オンライン)

場 所 とりぎん文化会館(鳥取県民文化会館)+ZOOM

全国自立援助ホーム
協議会 第27回
鳥取大会 報告

【1日目】

1. 行政説明
2. 基調講演 「配慮が必要な青少年への支援」
小栗 正幸氏



3. シンポジウム

「自立援助ホームを必要とする子は変わったのか？」

- シンポジスト 平井誠敏氏(自立援助ホーム 慈泉寮 寮長)
 申間範一氏(自立援助ホーム ウィング・オブ・ハート ホーム長)
 ハーレー公治氏(自立援助ホーム ごとみ ホーム長)

コーディネーター

関口 晃司氏(自立援助ホーム 雪舟ホーム ホーム長)

【2日目】

1. 自立援助ホームあり方委員会中間 報告

- 前川 礼彦氏(自立援助ホーム 湘南つばさの家 ホーム長)
 松本 耕造氏(自立援助ホーム 清周寮 寮長)

2. シンポジウム

「多様な取り組みからみえる課題と自立援助ホームの未来」

- シンポジスト 本間征二氏(自立援助ホーム KC カルム ホーム長)
 金本秀韓氏(NPO 法人 とりで 理事長)
 大宮美智枝氏(自立援助ホーム エスポワール ホーム長)

コーディネーター

内藤直人氏(自立援助ホーム 鳥取フレンド 寮長)

3. 閉会式

・周年祝い

20周年 ベアーズホーム

10周年 ・カーサ・デチップ ・Azul ・フレンズハイム ・ソレイユ

・神戸市立自立援助ホーム子供の家 ・びあかもみーる

・丸亀おひさま荘 ・フロンティア

・「合言葉発表」

・「主催者・実行委員長挨拶」

・「次期開催地挨拶」



【女性スタッフ研修会 報告】

1. 開催日時 2023年1月15日(木)～16日(金)
2. 実施方法 現地対面
3. 場 所 岐阜県岐阜市橋本町1丁目10-23 ハートフルスクエア
4. 研修内容



【1日目】

研修① 「自立援助ホームのリスクマネジメント」

講師:特定非営利活動法人 子どもセンターパオ運営委員
パートナー弁護士 下野谷 順子 氏

研修② グループ ディスカッション

「ホームにおけるリスクマネジメント」

【2日目】

研修③ 「若者支援におけるリスクと気づき」

講師:特定非営利活動法人 can 理事 屋代 通子 氏

研修④ グループ ディスカッション

「それぞれのホームで感じる危機管理と対応」



「女性スタッフ研修に参加して」

自立援助ホームしおん 硯見 まり

コロナ禍で対面での研修ができない日々が続きましたが、今回の女性スタッフ研修では全国から集まり対面で行うことができました。そのため、ディスカッションの時間などを通し交流を持つことでテーマに沿った日常的な悩みや疑問、意見を話し合い共感することができ、充実した2日間となりました。

1日目の下野谷順子さんのお話では、リスクの種類や対応の優先順位の決定方法、それを可視化できる表の使い方など、スタッフで共有し実践できるものばかりで大変参考になりました。中でも、「解決したから対応を終わらせるのではなく、モニタリングし改善するというサイクルを作ることが重要である」「緊急じゃないからこそ仕組み化することが大切だ」というお話が印象に残りました。

2日目の屋代通子さんのお話では、不特定多数の子どもたちのために行っている活動や、地域に新たにホームを作られたからこそそのリスクやその対応、スタッフ体制やLGBTQ支援のリスクなど具体的な実践をうかがうことができ、自身関わっている子どもたちやスタッフのことなど日頃の自分たちの実践に置き換えながら聞くことができ、改めて考えるきっかけになりました。

法律や制度の改正、子どもたちを含めた社会の多様化にあたり、リスクマネジメントの重要性を改めて感じ、子どもたちの最善のために活かせるようにしていきたいです。貴重な研修の時間を作っていただきありがとうございました。

全国自立援助ホーム
スタッフ研修
報告・感想
高橋健一郎さん
(三愛子ひつじ寮)

【スタッフ研修会 報告】

1. 開催日時 2023年1月19日(木)～20日(金)
2. 実施方法 現地対面
3. 場 所 日本特殊陶業市民会館(愛知県名古屋市)
4. 研修内容



【1日目】

研修 「自立援助ホームの支援について」
講師: 自立援助ホーム あすなる荘 恒松大輔氏

【2日目】

講義 「アドボカシー ～当事者の視点から考える～」
講師: 一般社団法人 たすけあい代表理事 田中れいか氏

【感想】

三愛子ひつじ寮 高橋健一郎

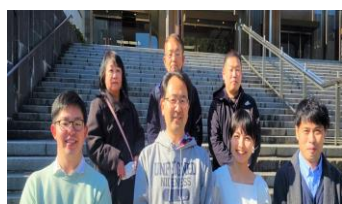


1月中旬に開催されたスタッフ研修会に参加させて頂きとても素敵な出会いとポジティブで明るい力を頂きました。スタッフ会を通して日々の生活の中でどう捉えれば良いのかわからないことや、どうもじっくりこないことに対して、一つ一つ抽象度の高い視点で物事を俯瞰的に見ることを可能にして頂いたと感じています。

これまで「見立て」「生活保護」「自立」「教育」「アフターケア」など様々な事柄に対して「〇〇しなければいけない」と思うことがあり、その結果、ジレンマに陥り苦しむことが多くありました。子どもを思い、自分を奮い立たせ、感じていたことではありますが、今思うとそれは願いではなく私の執着であったのではないかと思います。そのような思いに至ることができたのは、ひとえに講師の先生方の講義と、様々なホームの方とお話する機会を頂いたおかげです。私達のホームとはまったく正反対のルールや考え方をされている方、似たような方針の方、それぞれが千差万別で、大変面白い空間でした。しかし、それぞれの方とお話をして感じたのはどの方も傾聴するのがお上手で、穏やかで、職員特有の同じような悩みを持っており、子どもに将来幸せになってもらいたいと思っている方々であるということ。そして私と前提を共有していて、同じ世界観を共有していると思える雰囲気。子どもの将来の幸せや、自立という同じゴールを掲げているのに、全く異なる方法を選んでいる不思議さは私に外側の世界を見せ、新しい価値観を与えてくれました。この世に絶対に正しいものなどない。そして執着は自分や周りの人を苦しめてしまう。頭の中にふとそのような言葉が浮かびました

今後は「軽やかに、そして、しなやかに」これからはそんな子供とのやり取りができたらと思っています。素敵な出会いに大変感謝しております。

研修の様子



研修委員と講師の方々

【感想】

あてんぼ 佐野裕子

私がこのような研修に参加したのは、ひと月前の女性スタッフ研修が初めてだったのですが、研修内容もさることながら全国の自立援助ホームのスタッフの方々と、似た悩みを抱える「仲間」として思いを分かち合えることの意義が大きいと感じて、今回もまた参加させていただくことにしました。おかげさまで楽しく学ばせていただき、リフレッシュして帰ることが出来ました。



1日目は自立援助ホームでの支援について演習を交えてわかりやすく伝えて下さいました。その中で、子どもの成長はそもそも時間がかかるものであり、必要な経験を一つ一つ積み重ねていくことでようやく自立できる。安心安全の場でも20年かかるのだから、「積み重ねていない」子どもたちの自立が遅れるのは当然であるというお話がありました。これは普段ホームで、実年齢よりもはるかに幼い部分のある子どもたちと接するとき、本当に「当たり前の（と私たちが思っている）」経験をしてきていないのだな、と思う事がよくあるため深く頷いたのですが、頭で理解しているつもりでも、ついこちらもウンザリして、疲弊し、イライラしてしまうことが多々あるのです。支援とは全然綺麗事ではなくて、毎日の慌ただしい生活の中で料理や掃除や電話対応もしながら子どもとの関わりがあるので、職員に余裕がないとそれは子どもたちにそのまま還ってしまいます。自分自身が成長しないといけませんが、なかなか難しく、悪循環に陥りがちです。講義で改めて「子どもの成長には時間がかかる」と話して下さいのおかげで、すぐには何も変わらないにしても、どこか少しだけ脳が緩んだような気がしました。

二日目の講義はアドボカシーについて、当事者の立場から児童養護施設での経験など具体的な例を挙げて話して下さいました。自分にとっての「聴かれた経験」「聴かれなかった経験」を考えてみるという演習があり、他の皆さんも仰っていましたが、私もまず浮かんだのは過去の「聴かれなかった経験」で、何十年も前のことが今でも残っていることに驚きました。逆に「聴かれた経験」は思い浮かず、それはおそらく、ある程度聴かれていたか、聴かれなくとも割と自由に出ていたということではないか、とその時は思いました。後日談ですが、研修から帰った後でふいに思い出したのです。私が二十歳になる頃に、ある重要なことを周囲の大人に「聴いてもらっていた」ことを。それは人生でおそらく初めての「大人から完全に選択を任せて貰った」「たった一人で意思決定をした」経験でした。このことを思い出したことで、アドボカシーについて自分なりに少し理解できたような気がしました。「聴かれる」とは、元々自由に出てきていることの話ではなく、そもそも選択の余地がない場合の話でもなく、大人の意に沿うよう空気を読まなければならないわけでもなく、本当に純粹に子どもに決定権が委ねられるように「聴かれる」ことなのではないかと。どう思うか、どうしたいか、どうするか。これらを自由にできるということが自立への第一歩ということなのでしょう。

「茶話会」

開催日時 2023年2月21日(火)13:00～15:00

実施方法 リモート(ZOOM)



「コロナ禍」といわれるようになってから、研修の多くは中止またはリモート開催となりました。自立援助ホームの世界に入って、戸惑いや悩みをもたないスタッフはいないと思います。これまでは様々な研修、その後の情報交換会において仲間と語り、明日への活力を補充してきましたが、それができない今だからこそ、「ホームや地域の垣根を超えて心の中のモヤモヤを語って欲しい！」そんな思いから「入職5年未満」のスタッフを対象に「茶話会」を実施いたしました。

テーマは「最近ホームで嬉しかったこと、困ったこと」

当日は24人の方にご参加いただきました。どのグループも率直な意見交換ができたようです。

今後も魅力ある企画を考え、実施していきたいと思っております。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

「茶話会」

感想

木下雄司さん
(樹の下ホーム)

【感想】

樹の下ホーム
木下雄司



この度の茶話会は、全国の職員の方とお話ができる貴重な機会でした。必ずしも現地開催でなくとも、ZOOMという形であればより多くの方とお話ができるのだと改めて感じました。

茶話会の際は、今の自分のあり様を率直に話すことができる出来る雰囲気でした。だから、普段の業務の中では共有できない、けれども、今の自分にとっては大きな悩みなどを話すことが出来ました。このような場を設けていただき、感謝しています。ありがとうございました。

茶話会に参加してくださった方、残念ながら参加できなかった方、是非、感想、ご意見をお聞かせください。
今後の企画の参考にさせていただきます。

プレスリリース

「プレスリリース」しました！



本紙 4 ページ、5 ページに掲載の「スタッフ研修」「アドボカシー」について、プレスリリースを行いました。

掲載先「Value-press」(バリュープレス)
1 月 31 日公開
協議会公式 twitter、
LINE からも見るすることができます。

あり方検討委員会

「協議会運営」のあり方検討委員会について

来年、協議会は発足 30 周年を迎えます。発足当時よりも会員数が大幅に増えた今、改めて協議会の運営について見直す必要が出て参りました。各ブロックから選出された委員がブロックのあり方や協議会役員、各委員会の委員選出方法等について 10 月から毎月 1 回、議論を重ねてきました。会員の皆様からも貴重な意見を賜り、委員会に生かすことができました。役員、委員会の新体制につきましては、4 月の全国自立援助ホーム協議会総会で詳しい説明と採決がとられる予定です。今後、今まで以上にブロック活動、委員会活動が活気溢れるものになることを期待しております。

編集後記

【編集後記】

今年度はコロナ渦に負けず、対面での研修会が実施され始めました。研修会にご参加頂いた方々の感想を読んで、様々な事を学び、感じた貴重な時間であった事が伝わってきて、嬉しくなり共感させられました。

思い起こせば、私もたくさんの研修会に参加させていただきました。昼の講義では専門的な知識等を学び、その後の交流会では他ホームの同志と互いの養育論や支援方法などを語り合いました。その講義や、語り合いの中で自分の中にスッと入ってくるフレーズに出会うことがよくあり、気持ちが楽になったり、支援の幅が広がったり、自身の成長を実感する事がありました。この繰り返しで少しずつですが、養育者としての自信が僅かながら持てるようになってきたと感じています。

協議会では、あり方検討委員会を実施するなど体制強化に向け歩んでいるところです。研修・交流事業もより充実していくと思います。お忙しいとは思いますが、より多くの方に参加して頂けたら幸いです。

広報委員長 自立援助ホーム吾が家 大橋 達也